

技術者、研究者の道に旅立つ皆さんへ

物質工学科 寮務主事補 松井栄樹

日野の原稿を依頼されて、それぞれの道に旅立つ皆さんへ何か気の利いた言葉でも無いものかと探していました。私も大学4年生の研究室配属から考えると、早くも丸11年何らかの研究に携わっているわけで、振り返ってみると色々ありました。技術者、研究者と言えば、華やかな成果にばかり目がいきがちですが、研究というものは仮定を実現するための地味な試行錯誤であると思っています。

現在の学生気質を見ていると一部に非常に頑張っている学生がいるのも事実ですが、技術者としての基本姿勢が理解出来ていない学生が多く非常に残念です。私も色々迷い、悩む時もありますが、我々は自らの意志で技術の道に一歩足を踏み入れ、逆に習得した技術によって我々は生かされているとも言えます。つまり、これから技術者、研究者として最終的には社会の中で自己を確立する必要があります。

それぞれの道に旅立つ皆さんへ、美辞麗句で飾る代わりに、同じ道を歩いている先輩として「自分の可能性を諦めず、強い信念を持った決断と行動を行おう」と呼びかけたいと思います。